

内 容

* 防災未来センター見学に参加して

特別養護老人ホーム一本松荘 坂本 明宏

* 「人と防災未来センター」を見学して

匿名希望

* 災害時の民間病院・福祉施設に水を届けるプロジェクト経過報告

実行委員 中野 良治

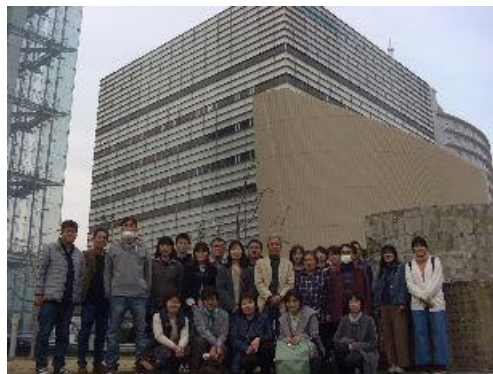
* 事務局からのお知らせ

○ 2019年度総会報告

御荘から3月号です。平成30年7月豪雨の後、「なんぐん地域ケア研究会」(南宇和郡医師会主催：平成8年発足)では医療、福祉、保健、行政、ご本人やご家族、様々な立場の市民の方々が参加し災害や防災をテーマに研修会を継続的に開催することになりました。

第3回目として、神戸市の「人と防災未来センター」への視察研修が実施され、阪神・淡路大震災での発災～復興～現在までの経過を知るとともに、東日本大震災についても改めて甚大な被害を再認識し、今、これから私たちができることを考える機会となりました。

参加された方々からの感想などをいただきましたのでご報告させていただきます。



* 防災未来センター見学に参加して

特別養護老人ホーム一本松荘 坂本 明宏

今回は災害後の復旧について防災未来センターの見学をさせていただく機会をいただきました。25年前の震災が大変なこととして記憶にありましたが数値で見ることによって改めて災害の大きさを知りました。

私にとって阪神淡路大震災は家族が被災しておりましたので他人事ではなかったのです。震災から二日後、連絡の取れた家族を迎えに長田区へ車で向かいました。兵庫県に入るあたりから交通網はあちこちで寸断され、通れる道は渋滞、神戸に近づくにしたがってさらに酷く、たどり着けるのか不安でした。そんな私にとって知人の貸してくれた自動車無線の受信機、ラジオの情報が役に立ちました。テレビ報道は役に立たない情報ばかり繰り返し流し、その後東京でテロが起きてから殆ど震災の情報は報道されなくなったのを思い出します。

展示にはありませんでしたが二輪車が運搬手段として活躍していました。満足に走れる車道は大渋滞、ガソリンも市外で給油する必要がありました。その点原動機付き自転車をはじめ小型二輪車は少しの燃

料で動き、車の脇をすり抜け、車では入れない道に入っていきます。足りない物資を被害の少ない余所の町から市内へ、人や物を運ぶ所を目の当たりにしました。

市内から西に 5 キロ手前では水・電気も通り、商品は空っぽでしたがスーパーも開いているのは不思議な光景でした。暮れなずむなか、明るく電気の灯った住宅もあって震災が本当にあったのだろうかと思いました。しかし長田駅周辺に近づくと建物は倒壊し、道は瓦礫であふれ無残な状態でした。すっかり日が暮れてたどり着いた避難先の学校では体育館の 1 畳に 2 人位が寝起きして、そこに家族はいました。トイレはパンクして男手で校庭に次々穴を掘って凌ぐ傍ら、倒壊が多い地域だったので電気が復旧する度にあちこちで火災が起きていました。消防や自衛隊も手が足りていませんから地域の方が消火活動をしていました。消火栓は水圧が低いのか、途切れているのか火がなかなか消せません。地域の方が車のジャッキを持ち寄り、瓦礫を浮かし救出活動をされていました。

教員室は安否確認に多くの人が入り出し、その横の教室は遺体安置所となっていました。安置場所の傍らには遺族の方も居られました。地震で倒壊した家屋の下で動けないまま電気の復活で火災が発生し亡くなった方の家族の言葉とその方に寄り添い慰め励ましていた地域の方の姿が今も忘れられません。

東南海地震が起きたならばその後の復旧についてどう向き合っていかななくてはならないのか、参考になることが多く示されていて勉強になりました。それと同時に現地の方々が大変な苦勞をされたこと、見学を通して知ることが出来ました。

今回は防災について改めて考える機会を与えていただきありがとうございました。



* 「人と防災未来センター」を見学して

匿名希望

「人と防災未来センター」を訪問して、リアルな地震による災害を疑似体験しました。そして、現在の自分がいかに恵まれているか幸せかという事を再認識しました。今の生活には「自由」があります。行きたい時にトイレに行け、飲みたい時に水が飲め、食べたいものが食べられます。そして、自分のやりたい事がやれるのです。



南海トラフ地震は必ず来ると言われています。しかし、減災として個人で準備・用意できる事には限りがあります。なぜなら、金銭面で多額の費用がかかってしまうからです。私は精神疾患を持っていますので、災害時には第一に向精神薬だけは持ち出さなければいけないと考えています。そうしないと、病気が再発してしまうからです。そのために、薬は大目に保管しています。地震で一番心配なのは、自宅の家屋崩壊と火災です。家さえ残っていれば、何とか過ごしていけると思うからです。しかし、私の自宅は老朽化していて、本来なら耐震化のためのリフォーム工事が必要です。でも、これまた金銭面で実際には全てをリフォームすることは不可能です。国や自治体に公費で耐震リフォーム支援の補助をしてもらいたいところです。火災だけはまぬがれたいので、地震が起こった時に自動消火するタイプの IH キッキングヒーターを開発してもらいたいです。現在、私はパート事務員・学習塾英語講師・障害年金の 3 つの収入だけで暮らしています。老後に備えての貯金だけで精一杯なのが実情です。

地震・津波が来たら「逃げるしかない！」という被災者からの言葉が印象的でしたが、生き残っても地獄のような生活になるのではないかと察します。しかし、日本はこれまで何度も巨大地震に襲われましたが、復興・回復してきました。その日本人の底力とリカバリー力はすごいと感嘆します。今、用意できている物は、飲料水・非常食・救急用品セットです。特に「水」だけは飲んでいないと生きていけないと思うので、重

要な備えだと思えます。また、防災だけでなく、老後生活のためにも、近所の人たちとのお付き合いを大切にしたいと思っています。

今後勉強したいことは、「障害者の親亡き後」について、今から準備できる事を学びたいです。親がなかなか終活してくれる気がないので、一緒に聞ける講演会や、一緒に読める冊子等があれば助かります。

* 災害時の民間病院・福祉施設に水を届けるプロジェクト経過報告

実行委員 中野 良治

平成30年7月豪雨の発災後、プロジェクトが立ち上がり宇和島市吉田町・三間町の医療機関や福祉施設、保育所等へ生活用水や支援物資をお届けさせていただいておりました。両町は浄水施設が土砂で流され、8月上旬まで断水が続いていました。通水後も、水道の濁りやにおいがあり、高齢者や子供たちに使用するのは不安との声が多く、生活用水は9月下旬まで3t活魚車で運搬をしていました。また飲用のミネラルウォーターについても、三間町の保育所3カ所へ継続してお届けし、3月上旬に各ご家庭での飲料水の不安もなくなったとのことで最後のお届けとなりました。

9月下旬に生活用水の運搬が終了した松平水産さんも、水の支援が終了するまでは最後まで関わりたいと、ボランティアとしてミネラルウォーター運びに来て下さった。また仲間の中田水産さんや従業員の方も加わり、3月まで継続することができました。(記録を確認すると、20ペットボトル約1万本をお届けすることができました。)

これらの活動も全国の協会関係者をはじめとする多くの方々の支援があり継続することができました。本当にありがとうございます。水の支援については一旦終了させていただきますが、引き続きプロジェクトは継続しながら、必要とされることがあればお手伝いさせていただこうと思います。今後ともよろしく願いいたします。

※三間町の成妙保育園のお別れ会に呼んでいただいた写真です。





* 事務局からのお知らせ

○ 2019 年度総会報告

3月10日(土)13時から15時30分、ハロー貸会議室浜松町北口駅前にて2019年度総会が開催されました。出席者と委任状提出者は43名となり、無事会議は成立しました。そして2018年度事業決算報告、2019年度事業方針と予算案のご審議をいただき、原案通り承認可決されました。

下記に決算報告書の抜粋を掲載し、総会報告とさせていただきます。ご協力ありがとうございました。本年度も宜しくお願い申し上げます。尚、定款に則り協会ホームページに決算報告書を掲載いたします。

科目	金額	合計金額
経常収益		
受取会費	640,000	
受取寄附金	3,000	
事業収益	237,120	
受取利息	6	
経常収益計		880,126
経常経費		
事業費	147,500	
管理費	259,950	
経常経費計		407,450
当期経常増減額		472,676
前期繰越正味財産額		733,367
次期繰越正味財産額		1,206,043



ー編集後記ー

◎ 愛南町での災害対策を、緩やかにスタートさせています。私(精神科医)が災害医療コーディネーターとして町の災害対策本部の一員となる強みを少し活かしつつ、専門的な準備も大切にしつつ、あらゆる住民がそれぞれの立場で参画できるようなしくみを模索中です。一旦を感じ取っていただけたら幸いです。

◎ 故仁木美知子理事長の偲ぶ会を、2019年6月29日(土)午後～30日(日)午前に行います。場所は東京新橋等を予定しています。美知子さんが命をかけて取り組んでこられたセミナーを、ゆっくり時間をかけて振り返っていきたくと考えています。海外・国内セミナーに参加された方々が持たれている写真や資料、事務局の記録(写真も数万枚あるとのこと)もできるだけ多く皆さんと見たり、語ったりしたいと思います。29日(土)の夜の懇親会までは企画しますが、宿泊は各自でお願いする予定ですので、日程の確保と、宿泊予約をはじめていただけたら幸いです。(長野)

特定非営利活動法人 精神保健福祉交流促進協会 TEL090-1811-7119